第1回 美里町地域公共交通活性化協議会会議 議事録

日時：令和6年7月24日（水）13:15～14:15

場所：美里町役場中央庁舎大会議室

出席者

令和6年度第1回地域公共交通活性化協議会出席者名簿

令和6年7月24日（水）13:15

美里町役場 中央庁舎 大会議室

（敬称略）

	団体名	役職	氏名	出欠	代理出席	備考
1	美里町	美里町長	上田 泰弘	○		
2	熊本バス 株式会社	自動車部管理課長	荒木 明美	○		
3	産交バス 株式会社	営業企画課長	佐藤 正直	○		
4	株式会社 麻生交通	代表取締役	麻生 伸一	○	○	有村 謙一
5	一般社団法人熊本県タクシー協会	事務局長	斎藤 ゆか	○		
6	第一タクシー 株式会社	代表取締役	渡辺 大祐	○		
7	補元タクシー 有限会社	代表取締役	上野 三成	○		
8	美里町囃託会	会長	池田 裕彦	○		
9		副会長	丸山 秀夫	○		
10	美里町PTA連合会	砥用小学校PTA会長	鷺山 利正	○	○	大島美沙
11	美里町身体障害者福祉協会	会長	宮崎 袈吉	○		
12	美里町老人クラブ連合会	会長	日方 和義	○		
13	美里町社会福祉協議会	事務局長	富田 康仁	○		
14	美里町商工会	事務局長	中嶋 春彦	○		
15	美里町議会	議員	平野 保弘	○		
16	石段の郷中央	支配人	渡辺 健朗	○		
17	九州運輸局 熊本運輸支局	首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	白石 勇人	○		
18	熊本バス労働組合	書記長	稲本 浩司	○		
19	全九州産業交通労働組合	副執行委員長	貢 博之	○		
20	熊本県県央広域本部 宇城地域振興局 土木部	維持管理調整課長	小森 正棋	○	○	西本 直次郎
21	美里町	建設課長	富永 英司	○		
22	熊本県警察 宇城警察署	交通第一課長	大村 幸治	○		
23	熊本大学	くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授	吉城 秀治	○		
24	熊本県交通政策課	交通政策課 審議員	高松 江三子	○		随行者あり
25	美里町福祉課	福祉課長	谷口 信也	○		
26	美里町学校教育課	学校教育課長	中川 幸生	○		
	事務局	課長（事務局長）	澤山 誠			
		係長	仲嶋 浩伸			
		主査	坂田慶太			

次 第

1. 開会 （美里町澤山課長）

2. 会長挨拶 （上田会長）

美里町地域公共交通活性化協議会は地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき設置され、美里町の地域公共交通のあり方の検討や地域公共交通サービスの持続的な確保を推進するための会議である。町の公共交通である美里バスが平成 30 年に運行を開始してから 6 年が経過し、美里町内の状況だけではなく、公共交通を取り巻く社会的情勢や住民の皆さんのニーズというものも大きく変化している。皆様にいろいろとご協力を頂きながら美里町の地域公共交通の検討を進めて参りたいと考えているため、忌憚のないご意見を頂ければと思う。

3. 副会長選任

会長は美里町地域公共交通活性化協議会設置要綱第 4 条第 3 項の規定に基づき、熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター准教授 吉城秀治委員を副会長に任命した。

4. 議事

(1) 美里バスの利用状況と課題について

美里バスの利用状況と課題について、事務局より資料 1 を基に説明した。以下に主な内容を記す。

・美里バス利用者数の推移

美里バスの利用者は令和元年度をピークにコロナ禍の影響で大きく減少。令和 4 年度までは緩やかに増加傾向にあったが、令和 5 年度からは減少・横這いに転じ、月あたりの利用者数が令和 2 年度と比べると 20 人ほど大きく下回った数値で推移している。

・美里バスの運営経費の推移

令和 2 年度以降は 1,500 万円程度に落ち着き、年度による変動はあるが全体の運営経費は抑えた数値で推移をしている。

・現状の地域公共交通が抱える課題

・昨年度、美里町でまちづくりに関してのアンケートを実施し、美里バスを必要とする方は町内でもわずかであったが、10 年後の公共交通の利用意向を尋ねると、公共交通の利用意向ありの回答が増加した。

・生産年齢人口が減り、公共交通のニーズが増えていくという状況にある中で、今後

は福祉や教育、観光など分野を横断した地域公共交通の検討が必要になる。

- ・地域公共交通の再検討では、美里バスの利用者増を図る方策を検討していく。検討にあたり、地域全体の移動需要やニーズ、地域全体の供給力などを、交通事業者や住民、関係者と連携して明らかにしていきたい。また、地域公共交通の持続性の確保にも留意し、検討を進めていく必要があると認識している。

【質疑応答】

日方氏（美里町老人クラブ連合会）：

年を重ねるにつれ免許証を返納する人が増えると思われる。現在、町の中での免許証の返納はどういった状況なのか。事務局の方では何か確認しているか否かを教えていただきたい。

事務局：

どの程度の方が免許証の返納を行っているのかの実態調査は実施していない。町として免許を返納した方に美里バス無料券一万円分を配布する事業を行っているが、本年度4月以降で4名の方にお渡しをしている。今年度に限ってみても少なくともそれ以上の方々が免許証を返納しているという状況があると認識している。

今年度の住民アンケートを実施するが、その中に免許返納の意向や返納状況を問う設問入れ、免許返納に関する実態というものを明らかにしていければと考えている。

(2) 美里町地域公共交通計画の策定について

美里町地域教協交通計画の策定について、事務局より資料2を基に説明。

・美里町地域公共交通活性化協議会について

地域のニーズや課題は多種多様である故、地域の関係者の方々に地域の交通を総合的に検討することが会議の狙いである。主として「地域公共交通の将来について」、「コミュニティバス、デマンド型交通等の運行について」、「地域公共交通の利用促進について」の3点を議論する。議論を進めるにあたっては、地域の輸送リソースを最大限生かすことに留意して検討を進める。

・美里町における公共交通に関する計画策定状況

美里町では平成28年度に本町における地域公共交通に関するマスタープランである「美里町地域公共交通網形成計画」を策定。平成29年度には「美里町地域公共交通再編実施計画（任意版）」を策定し美里バスの導入が進められた。

・地域公共交通計画策定（網計画改訂）の必要性

網計画では「まちづくり」と「持続可能性の確保」の観点から課題が整理されている。策定後に関連法案が2度改正されており、また町内にも変化・新たな課題が出てきているため、地域公共交通の課題の再整理を行う。整理した結果を基に、新

たな地域公共交通計画を策定する必要がある。

・地域公共交通計画について

計画の構成としては、国で定められている作成の手引きに示されているように公共交通の現状・課題に関する項目と、今後の在り方や施策や事業の進め方といった計画に関する項目の二部構成となっている。

・地域公共交通計画策定に向けた調査・検討

令和 6 年度、7 年度の二か年で検討しながら策定に向けて進めていく。

令和 6 年度は公共交通体系の現状分析のため、人口の動向、移動状況、公共交通の利用状況、運営状況を調査する現状分析を行う。町民アンケートや地域住民との懇談会を実施しニーズの把握調査を行う。現状とニーズを踏まえて現在の美里町における公共交通の問題点及び課題の整理を行い、美里バスの方向性を踏まえ町民の方々と改めて話をし、意見を反映させながら検討を進めていく。令和 7 年度は公共交通計画の今後の方針・施策事業を検討し素案を検討していく。

8 月頃に交通事業者にヒアリングを実施し、次に公共交通以外の移動サービスの状況調査としてバスや美里バス、タクシー以外の旅客輸送サービスについてサービスの概要や利用状況などを町所有の資料を基に整理する。他には町内の 18 歳以上の町民の中から無作為に抽出した 1,000 人を対象に郵送配布・郵送回収の形でアンケートを実施する予定である。免許の保有状況及び返納状況、返納の意向も項目に入れる予定である。生活様式の項目については移動を伴わない勤務や買い物の実態も把握できればと考えている。

地域住民との懇談会については、第 1 回はアンケートだけでは難しい詳細なニーズの把握のために実施する。第 2 回は問題点と課題を整理した後に実施し、町民の方々は実際どのようなサービスが欲しいのかを含めた今後の話をするべく実施する。

【質疑応答】

委員 1 :

網形成計画で議論されていたことを踏まえて現在の美里バスが出来上がっているが、課題達成できていなかったことや反省を踏まえて発展させるべき内容というものは今現在認識しているものはあるか。

事務局 :

課題としては、コロナ禍があったことも要因の一つではあるが、想定以上に利用が伸びないということが挙げられる。認知度の問題か使い勝手の問題か、様々な問題点があると思うが利用が伸び悩んでいる点が課題である。外部へのアクセスの拠点ともなる地域公共交通の拠点を持続させ盛り上げていくことが今後も必要

な点であると考えている。拠点に対してどのようなアプローチで住民の方々を運ぶのか、どのようなニーズがあるのかを考え今後進めていくべきではないかと事務局として考えている。

デマンドで前日までに予約をしなければいけないということが大きな壁になっているのではないかと感じている。住民が求めているサービスを提供するにはマンパワーが足りないという状況もあり、このような状況が、利用者が伸びない原因の一つではないかと思う。

委員 1 :

今回出てきたような反省点や検証を踏まえたうえで本計画に活かしていく必要があると思われる。

アンケート調査に関してだが、美里町だからこそその問題点を踏まえた設問はあるか。想定があればお聞かせ願いたい。

事務局 :

ご質問いただいたアンケート内容について確実に必要だろうと考えているのは二点ある。

一点目は高齢化に関する設問である。スマートフォンの利用状況や免許証の返納状況を問う設問を用意する予定である。高齢者のニーズを把握するために、アンケートの他には、町の福祉課で実施しているサロン事業の場に出向き、アンケートでは知ることが出来ない考えをお伺いする等を我々で実施したいと思っている。

もう一点、通学の話に関しては実態が不明だが、高校等に通う際に町内からの通学の難しさから町外に一時的に住まいを移したというような話も聞く。どの程度の割合でそのような状況にあるのかお伺いをしながら、実際にその時間帯に公共交通を用意することは可能なのかも含め、ニーズを確認しておくことは重要な点になると考えている。

委員 2

前回の網計画の計画から約 8 年経過し、交通業界では担い手不足が大きな課題となっている。国土交通省でも先日交通空白地域解消本部が立ち上げられ、交通空白・担い手不足解消に取り組んでいる。今回交通計画を策定されるにあたっては以前の網計画との違いと、町内全ての公共交通もしくはその他の移動手段を網羅的に見て分析し対策をとっていただきたいと思っている。町内の中でも広域移動の部分と町内移動の部分とがあると思うが、その部分の住み分けやどのように実施していくのかといった目線もぜひ念頭に入れていただければと思う。国交省の方では今、公共交通に関するスローガンを「共創」としている。公共交通は単独で持続するのは難しいものである。移動には目的があるので、観光や福祉、

介護、教育など様々な分野と連携して公共交通を維持していただきたい。担い手不足の件もあり、何もしなければ交通を残すことが出来ない時代が変わっていくため、国としても全国的な担い手不足の対策というものは実施しているが、一地域でも出来ることはないかということ公共交通計画の中で取り組んでいただきたいと思っている。

最後一点質問として、今回の町民アンケートの対象は18歳以上ということであるが、高校生の方へのアンケートというものは今回不要なのかということをお聞きしたい。前回の網計画を見ると高校生アンケート調査を実施している様子であるため、以前と状況が変わってきて不要になったのか否か、その点を確認させていただければと思う。

事務局：

高校生アンケート調査が必要であることを改めて認識した。改めて調査の項目について必要な確認を行いながら出来る限り実施し、教育を受けている世代のニーズをどのようにして把握するかを検討する。

委員3

地域住民との懇談会で「中央地区」「西砥用地区」「東砥用地区」とあるように各地区で1つ、2回実施するのか。これだと美里バスを利用する人はその会場に来ないのではないかと思うので、先ほど名前が挙がっていたサロンの場を通じて、利用される方の生の声を聞ける場というものを設定していただきたい。この懇談会を地域で細かく分けて開催というのは難しいと思うが、何か工夫をしていただきたい。

事務局：

ご指摘の通り、現状美里バスをご利用いただいているコアの世代の方たちはこのような懇談会にはお集まりいただけないのではないかと我々も考えている。そのような方たちに対してはサロン等に足を運び、ご意見を賜りたい。網羅的に全地区で開催するという事は難しいため、サロン等で社会福祉協議会の方や福祉課にご協力を頂きながらご意見を集められればと考えている。こちらについては今後検討していく部分になるため、ご利用される方たちの意見を広く集められるよう考えたい。

(3) その他

事務局：

交通事業者の皆様には交通事業者ヒアリング調査等へのご協力をお願いしたい。住民の方との懇談会については具体的な施策を作っていくのが重要ではないかと考えているため、懇談会の開催に際しては会議に出席している方を含めて声掛けをしながらご参加いただき、様々なお意見を賜りたい。会話をしながら次の公共交通施策を地域の方々と共に考え、次の公共交通政策や新しい美里バスを作っていきたいと考えている。

以上